

訂正追記（杵渕博樹:〈ドイツの罪〉と戦後 ― ギュンター・グラス作品に見る〈反戦〉）

本論文「〈ドイツの罪〉と戦後」には誤りがあるので、訂正いたします。

「3. 政治の季節」の『カツムリの日記から』に関する記述(4 頁)に、「戦時中、隠れて生き延びたひとりのユダヤ人と彼をかくまった男のエピソード」、また、「このユダヤ人の物語」とありますが、ここで「ユダヤ人」とされている登場人物、「疑念」Zweifel ことヘルマン・オットは、正確には「ユダヤ人」ではありません。彼は「敬虔なメノー派信者の家庭の出身」とされており、「ユダヤ人移民局」で働いたのち、「ユダヤ人学校」の教員となり、ナチス台頭後も、ユダヤ人社会との関わりを避けることなくこの仕事を続け、多くのユダヤ人の出国を助けていたため、ついに自身も再度の出頭命令を受けるに至り、身を隠すことを余儀無くされた人物です。ただし、このヘルマン・オットをかくまったカシューブ人の自転車修理店主アントン・シュトンマは、ヘルマン・オットをユダヤ人だと思っていたことになっています。

2022 年 1 月 杵渕博樹